

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2018.08.No252

8月号

目次

建築のお仕事体験2018 in 新さっぽろ	1
青年・女性の窓 [No.87 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	3
Coffee Break	4
技術ノート (CPD認定教材)	5
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

建築のお仕事体験2018 in 新さっぽろ

青年委員会 委員 亀田 誠 (日高支部)



平成30年6月16日から17日にかけて新さっぽろ
アークシティサンピアザ光の広場にて毎年恒例と
なっています「建築のお仕事体験」～7月1日は建
築士の日～イベントが開催されました。今年で第6
回目となります本イベントには約1200名の市民の皆
様にご参加いただきました。



会場の様子

「7月1日は建築士の日」とサブタイトルを掲げ
ていますが、みなさん、なぜ7月1日が建築士の日
なのかご存知でしょうか。当日会場で年輩の方から
「なぜ7月1日は建築士の日なのでしょう」と尋
ねられ、一瞬「？」でしたが、多分深海より深い
であろう私の奥底に眠る記憶を頼りに「はっきりはお
答えできませんが、法の施行日が7月1日だったこ
とから建築士の日としたと記憶しています」と回答
しましたが、その場では本当にそうなのか自信が
ありませんでした。答えは社団法人日本建築士会連
合会のホームページにありました。

○建築士法施行の日 7月1日 (昭和25年)

○昭和62年10月2日制定

「全国的に「建築士の日」(7月1日)を設けて、
社会に広くPRし、われわれ自身も改めて建築士の

意識を再確認する日としたい」と第30回建築士会全
国大会(岩手大会)において決議されてきました。
また、2012年6月号の会誌「北海道建築士会」にて
針ヶ谷青年委員長(当時)が「7月1日って何の日？」
とタイトルで寄稿されていました。詳細は北海道建
築士会ホームページバックナンバーよりご確認ください。
ちなみにウィキペディアには「建築士の日」
が載っていました。また、7月1日建築士の日にな
み、今年も各支部で様々な事業を企画しています
ので他の支部をのぞいて見るのもいかがでしょうか。



スタッフによる準備の様子

イベント当日は6月中旬とは思えない記録的な寒
さが続くなか、全道各地から青年建築士が新札幌へ
集まりました。私個人としては5年ほど前に「すん
でみたいお家をかいてみよう」コーナーのお手伝い
をしたことがあります。子どもたちの熱気に圧倒さ
れ、大汗をかきながら絵の張り出し、チーク渡しを
したことを憶えています。今年は主催側である青年
委員として参加させていただきました。

今年の内容は昨年から継続しています「ブロック
でまちをつくろう」、「木に触れて組み木を組んでみ
よう」、「折り紙建築」、「ストローでフレームをつく

ろう」の4つのお仕事体験をベースに「建築何でも相談」、「建築士会活動パネル展示」を展開しました。参加者を募り開催した「ライブイベント～親子で学ぶ「住まい」の大切さ キミも今日から建築士～」では、昨年までお仕事体験であった「パズルでお家を考えよう」を使い、小林青年副委員長を講師に体験型授業を行いました。講師の熱弁に応えるように子どもたちも一生懸命授業に参加し、「住まい」の大切さを学び、それぞれの思い描く家づくりを体験しました。17日には札幌市の景観や都市計画をゲーム形式（トレーディングカード）で学べる「景カード」が行われ、幅広い年齢層の方々にまちづくりに関心を持っていただきました。



レゴブロックのまちなみ



ライブイベントの様子

今年もお仕事体験を終えらるともらえるスタンプを4個集めると「こども建築士免許証明書」の記念撮影できるというスタンプラリー事業を行いました。その場で発行、手渡しできるプレゼントに子どもたちだけではなく、保護者の方からも好評いただき、良い思い出として残すことができたと思っています。また、子どもたちはお給料として渡したイベント通貨「チーク」を手に駄菓子屋ブースのお菓子やおもちゃなどの買い物を楽しんでいました。



スタンプラリー記念撮影の様子

ある保護者の方から「以前にコースターを製作したのですが、今年もやってますか？」と尋ねられました。コースターづくりは札幌駅前通り地下歩行空間で開催していたころにあった事業でその頃から参加され、またイベントに参加していただけたら本イベントが長く浸透してきているものと実感しました。フェイスブックをはじめとするSNSによる発信、地域新聞への掲載、新聞社からの取材も大きなPR活動となり、本イベントの継続につながっているのではないのでしょうか。

平成28年に開催された全道青年委員会連絡会議において意見のあった「スタッフの確保が大変」が現実のものになっています。今年はスタッフ48名と昨年の57名から9名減となっている状況です。

本イベントは「青年建築士と社会が幅広く連携した取り組みをする」一環として、7月1日の「建築士の日」に合わせて開催し、「建築士」や「建築士会」をアピールすることで、一般市民（子ども）に「建築士会」を幅広く知ってもらい、そのブランド力を高めるものです。また、新体制となった本部青年委員会では魅力ある建築士会の増大を目指し、「ひろげる・つなげる」をもっと深め「建築士としての“より良い”を目指す」活動をしていきますので、本イベントの継続、成功のためにも来年も是非、青年建築士の皆様にさらなるご協力をいただけるよう心からお待ちしております。また、学生の皆様もよろしくお願ひします。

最後に・・・

本イベント会場を貸していただいた札幌副都心開発公社様、ご協賛いただきました東西アスファルト事業協同組合様、ならびにご後援いただいた札幌市様と、本イベントに向けて協力してくれた北海道職業能力開発大学校、青年建築士の皆様に、心より御礼申し上げます。



『道新住まいるKUSIRO』
に参加して

須藤志津子 (釧路支部)

3月17日、18日の2日間開催の「道新住まいるKUSIRO」から建築士会釧路支部女性委員会へ依頼され、トークセッションを行いました。

参加して頂くお客様に、住宅を計画するにあたり、大切な事を分かりやすくお話しするにはどうしたら良いかと話し合いました。

そこで、新人建築士の「これから住宅を設計する上で、良い家を設計するためにはどうしたらいい？」という相談に答える形で、ミッション1～ミッション7までをベテラン建築士やベテランコーディネーターにより実例を挙げながら話していきました。

■ ミッション1

家族の意見を確認せよ

■ ミッション2

財布の中身の総点検を求めよ

■ ミッション3

生活パターンを確認せよ

■ ミッション4

施主のこだわりを徹底調査せよ

■ ミッション5

イメージが分かる資料を手に入れよ

■ ミッション6

家づくりの主役は誰かをしっかり伝えよ

■ ミッション7

プロとして言え！ダメなものはダメ、変なものは変。

上記のテーマでミッション7迄進んだ後、失敗しがちな「覚えて欲

しいこと」をパワポに併せて、実例を交えながら話していきました。

次に、成功例の実例写真を見ながら、各設計者が簡単に説明しました。

最後に、司会の金子さんから、家づくりには必ず建築士が関わる事、ぜひ建築士を活用して欲しい旨を説明して終了しました。

お客様が少なかった事が残念で

したが、建築士の仕事を少しでも一般の方に分かって頂けるきっかけになったのではと思いました。



パネラーとして参加



トークセッションの場面

『女性建築士の集い』のご案内

藤井 洋子
(旭川支部)

今年度の女性建築士の集いは、旭川にある北方建築総合研究所の施設見学会を開催します。前日の士別全道大会A分科会の見学会場となっている、士別市糸魚小学校で実際に導入された、自然の力を活用した換気システムは、この研究所で考案された技術を採用したものです。

研究所庁舎は2002年に建設され、冬期間貯めておいた雪を利用した夏の冷房システムに、当時見学会に来た多くの方は関心をもたれたのではないのでしょうか。16年もの歳月が経ち、研究所で実際に働いている方のお話や、普段見るこ

とのできない実験室、どのような研究をしているのかなど、これからの環境問題や省エネ設計のヒントになることが沢山あるはず！ぜひ参加してみませんか！



研究所のアトリウム

日時 10月7日(日) 9時50分～13時30分
集合場所 北方建築総合研究所ホール
 10時開会～研究所庁舎見学11時45分終了～昼食後解散
申込方法 ①参加者氏名、②所属支部、③連絡先(電話・メール)、④昼食(希望者のみ自己負担)、⑤交通手段を添えて下記に申してください。

建築士会事務局 (岡本宛)

TEL : 011-251-6076 FAX : 011-222-0924

Email : okamoto@h-ab.com

(締切り : 9月20日)

室蘭支部

新支部長としての抱負

支部長

川田 寿之



平成30年度（一社）北海道建築士会室蘭支部 支部長を仰せつかりました。

歴代支部長は、長年にわたり室蘭支部を支えてこられた方々なので大役を任され身がしまる思いでいます。昭和58年に建築士会に入会し、今年で36年になります。青年部長を歴任し、当時の青年部事業として「親子ふれあい工作室」をおこない、未来の建築士の卵を育てるお手伝いをさせていただきました。毎年、小学校を廻り、ベンチやプランターを製作し寄贈して学校関係者や小学生の子供たちに大変喜ばれました。

初めての支部長・事務局長会議に出席させていただいた時、感じたことは北海道の各支部より出された問題点はやはり会員数の減少でした。

室蘭支部も同じように、会員数の減少は大きな問題となっています。

なぜ減っているのかを考えてみると、まずは建築士を目指す人材が減っているということではないでしょうか。特に室蘭市は人口が著しく減少していますが、それとは裏腹に鉄鋼関係が好調で、室蘭工業高校建築科の生徒たちも大半は鉄鋼関係の仕事に進み建設業を希望する生徒が少ないことが一番懸念されているところであります。こんな中、魅力ある建築士会を目指し、支部として盛り上げていくことを約束させていただきました。

今年度の支部事業としては、例年行っている8月の親睦ボウリング大会・ビアパーティーは100名程度の参加を見込んでおります。また、青年部が主催する子供たちが参加して、鳥の巣箱を作る「ふれあい工作室」も市民から期待さ

れている事業の一つになっております。

いずれにせよ、まだ建築士会に入会していない建築士や、あまり事業に積極的に参加していない会員に向け、魅力ある建築士会をアピールしていこうと思います。

また、6月22日に就航した宮古～室蘭フェリーがいま、室蘭の活性化に新しい期待が寄せられています。10年ぶりに再開したフェリー航路とあって、いろいろな団体や企業が親交を深めつつあり、私たち室蘭支部としても宮古との親交を深めたく思い、模索している最中です。これからの発展に向け、大きな期待をもっています。新しい室蘭支部をこれから作り上げていけるようにがんばっていきます。



宮古・室蘭の魅力を紹介

士別支部

建築士会と私

青年部長

飯田 誠



思い返すと私が、建築士会に所属してから17年が経ちました。建築の仕事自体が嫌だった自分が、少しずつ仕事の楽しみを見つけ、建築士試験に挑戦し、合格してから間もなく、当時の会社の先輩に勧められたのがキッカケでした。最初は、名前だけの登録のつもりでしたが、年1回、開催される『建築士会ビールパーティー』の手伝いをする中で、使命を全うしていると思っていました。その後、会社の先輩が道北ブロック長に就任。先輩から、『勉強になるから、青年連絡会議に行ってみないかい？』と誘われ、参加したのが実質的に建築士会活動のスタートでした。建築の仕事にやりがいを見いだした時期でもあり、各種資格取得にも挑戦していた私にとって、学べるものはたくさんありました。終了後の懇親会でも、各地の建築士の方とも交流することが出来て、自分にとってプラスになる事が、たくさんありました。

それからは、建築士会の会報やホームページも見られるようになり、CPD制度にも興味を持ちました。当時の会社では、主に公共工事の仕事が主体だった為、CPDに登録して学習していけば、工事受注に少しでも貢献できると考えたからです。最初は、毎月の会報に掲載されている問題をやっていましたが、講習でも単位を取れることが分かり、積極的に各種講習にも参加してきました。CPDに認定されていない講習でも、建築に関係していると思えば、本部にレポートを提出し、単位を取得してきました。CPD単位取得の為に何気なく参加した、女性委員会による「建築士による住教育出張講座」が縁で、2回ほど高校生と一緒に「卒業後の一人暮らしの間取り」について勉強させて頂く事も出来ました。何年か前の話ですが、高校生と一緒に勉強する機会など無いので、新鮮で、とても良い経験になりました。

建築士会の活動にも顔を出すようになり、副青年部長の話を頂きました。『副役職だし、そんなに大変ではないだろう』と安請け合いをしてしまい、気が付けば、青

年部長の話までできてしまいました。力不足ではありますが、支部の皆さんに助けて頂きながら、何とか務めております。

ブロック協議会、青年連絡会議、青年建築士の集い、全道大会と行事があるごとに出来る限り参加してきました。普段、行けない所に行くことが出来て、学んで、楽しんで、友好も広がる。仕事にも活かして、様々な活動の中で人生の幅も広げられる事は、なかなか無いと思います。まだ、建築士会に所属していない若い人達にも、この良さを知って頂きたいと思います。

今年の全道大会は、我が士別支部で、10月6日の開催となります。私が青年部長の間に、全道大会が来るとは思っていませんでしたが、現在、多くの方々のご協力を頂きながら、準備に当たっております。大会テーマが『未来へつなぐ 天塩の流れ 人と大地の躍動』となっております。天塩川をはじめとする大自然に囲まれながら、未来の建築士について語り合いたいと思いますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。よろしくお願い致します。

地域生活価値に関する研究

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部
 北方建築総合研究所 地域研究部地域システムグループ 主査（資源循環）
 牛 島 健

1. はじめに

今後も人口減少が進行する北海道の農山漁村において、限りある行政コストの中で一定の生活利便性を確保していくためには、集落再編の議論は避けられない課題となっている。しかし、地域において単純にアンケートを取れば、たとえそこが不便な地域であったとしても大抵は「今の集落に住み続けたい」という声の大半を占める。そして、集落再編の議論は容易には進まない。こうした状況を打開するには、もう少し踏み込んで、その地域に暮らす人々がどのような形で『その地域で暮らすことの価値』（「地域生活価値」と呼ぶ）を感じているのかを丁寧に分析する必要がある。そして、集落再編を進める上では、この「地域生活価値」を適切にとらえて見える化し、地域生活価値を低下させない移転・集住化対策、地域生活価値をさらに高める定住化促進対策を効果的に行っていく必要があると考え、筆者らはこれまでにいくつかの「地域生活価値」に関する研究を行ってきた。

本稿では、この「地域生活価値」に対して筆者らがその構造の解明や可視化を試みてきた研究の一部を紹介する。

2. 既存指標のレビュー

まず「地域生活価値」と関連が深い概念として「豊かさ」や「幸福度」に着目し、これまでに提案されている指標を文献等から調べた。

古くから使われている指標の一つであるGDP（国民総生産）は、経済的な側面に限れば非常に優れた指標であり、現在も使われている。しかし、経済的な側面だけでは不十分であるとの批判も古くからある。そこで、保健、教育などの要素も取り入れた人間開発指標（HDI）¹⁾や、さらに多くの要素を取り入れてOECDが10年近くかけて作成した「Better Life Index」²⁾、ブータン国の国民総幸福（Gross National Happiness）³⁾、内閣府の有識者研究会「幸福度に関する研究会」による幸福度の指標⁴⁾など、また、各国の言語に翻訳され、国際比較が可能とされるWHOQOLシリーズ⁵⁾や、Lyubomirskyの主観的幸福度⁶⁾など、その他にも多くの指標が存在する。

これらの指標はそれぞれ、「何が人を幸せに（豊かに）するのか」という豊かさや幸福度の要因につ

いて検討した上で、指標を構成するパラメータを選択している。先述のとおり、GDPは経済的な豊かさが人の幸福度に大きく影響するということが前提となっているし、人間開発指標（HDI）は、保健、教育、所得という人間開発の3つの側面に着目して指標化している¹⁾。内閣府の幸福度指標では「経済社会状況」、「健康」、「関係性」の3つを柱に指標化を行っている⁴⁾。パラメータの重みづけを評価者が行うOECDのBetter Life Indexでは、重みづけをするパラメータは「物質面での生活水準」「生活の質」「持続可能性」の3つが柱となっている²⁾。ブータンのGNHは、「心理的な幸福」「国民の健康」「教育」「文化の多様性」「地域の活力」「環境の多様性と活力」「時間の使い方とバランス」「生活水準・所得」「よき統治」の9つのドメインに属する合計33の指標で構成されている³⁾。WHOQOLシリーズでも代表的なWHOQOL-BREFは、「身体的領域」「心理的領域」「社会的関係」「環境」「総合」の5つのドメインに属する26の質問によって構成される⁵⁾。

以上は、対象や定量化の程度も大きく異なるものが含まれるため、単純に整理はできないが、大まかには、「物質的な豊かさ・環境」「経済的側面」「教育・心理的側面」「健康」「社会的側面」といった点が、「豊かさ」の要因の最大公約数と言えそうである。

3. 地域生活価値が得られるしくみの可視化

富良野市および南富良野町において、連合町内会単位で、それぞれ代表者または役場から紹介を受けた住民、合計7名を対象に、ヒアリングを行った。内容は、該当する地域の住民の普段の買い物先や生業、近所づきあいなど、生活全般とした。ヒアリングの結果をもとに、世帯を中心とするひと・もの・価値のやりとりを図化した（図1）。

個々の結果は割愛するが、概ね以下のような特徴がみられた。まず、大半の価値のやり取りでは、貨幣による対価が支払われていたが、物々交換や助け合いなど、貨幣を介さない価値のやり取りも見られた。後者の場合、例えば農作業を手伝った対価として収穫物を分けてもらうなど、概ね妥当な対価をやり取りするものが多かったが、一部で、助け合いの対価が得られず“報われない”一人が、不満を抱えてしまっている例も見られた。

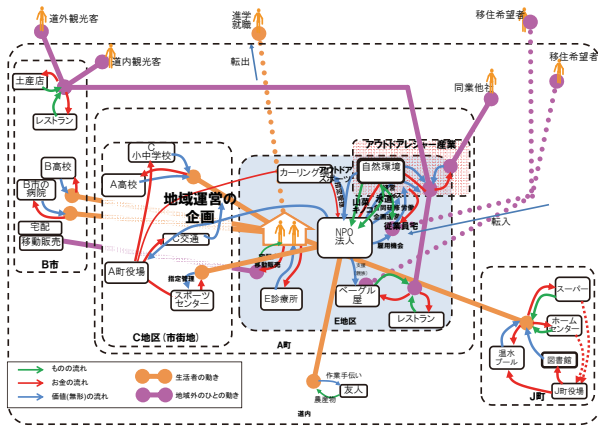


図1 ひと・もの・価値フロー図による可視化の例

一方、自然から一方的に価値を得ている状況も確認された。山菜取りなど個人が日常的に行うものだけでなく、アウトドア業など産業のリソースとして自然の価値を利用する状況も確認された。

以上の結果は、あくまで個別事例であり、また、地域生活価値を直接的に扱うものではない。しかし、価値交換の特徴とヒアリング調査時における回答者の発言ニュアンスをもとに、次の仮説を立てた。

- ①貨幣による対価支払いだけでなく、多様な価値のやり取りのチャンネルを持つ方が、地域生活価値は高まりやすい。
- ②提供される価値と対価のバランスが極端に悪い場合には、提供側にとっても受け取り側にとっても地域生活価値が低くなる場合がある。
- ③周辺に自然があるだけでなく、自然資源を実際の暮らしや生業に活用できる場合に、地域生活価値を高めることができる。
- ④利便性が一定レベル以下になると、利便性の違いは地域生活価値にあまり影響しない。また利便性が客観的に低くても、現状に満足している状況は存在し、その場合は地域生活価値も高い。

4. 統計解析による地域生活価値の構造の把握

共分散構造分析による統計解析を前提に、先述の既存指標のレビュー結果、ひと・もの・価値フロー図から想定された仮説に基づき、地域生活価値を高める要因とその構造に関する仮説モデルを立てた。その仮説に基づいて地域生活価値に関するアンケート票を構成し、2018年2月にアンケート調査を実施した。対象は、富良野市と南富良野町の住民とした(表1)。富良野市は人口約2.2万人の農業地域で、その中心市街地は、周辺市町村を含む富良野盆地の中核となっている。南富良野町は富良野盆地の南端に位置し、人口約2,500人の農業・林業を中心とする地域で、住民の買い物や医療は富良野市中心市街地もしくは新得・帯広方面の施設利用が多い⁷⁾。

表1 アンケート概要

	富良野市	南富良野町
対象者	成人全員 (市街地居住者を除く)	成人全員
配布数	4,846	1,948
回収数	1,382 (うち有効回答は1,379)	540 (うち有効回答は536)
回収率	28.5%	27.7%
方法	富良野市および南富良野町より郵送配布。同封の返信用封筒にて回収	

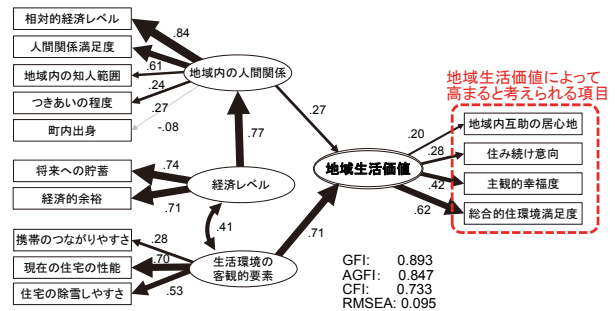


図2 地域生活価値の仮説モデル(富良野市)

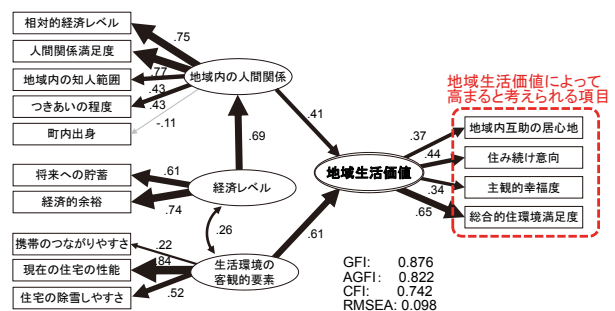


図3 地域生活価値の仮説モデル(南富良野町)

アンケートで得られたデータを用いて共分散構造分析による仮説モデルの検証を行った結果、当初の仮説は棄却されたため、いくつかの修正仮説を立てて共分散構造分析による検証を行い、最終的に統計的に有意かつモデル適合度も妥当なモデルを得た。このモデルの構造は、富良野市(図2)、南富良野町(図3)の間で共通であった。

これらのモデルから読み取れることは、①地域生活価値を直接的に高める要因は、利便性や住宅性能等を指標とする「客観的な生活環境」と、知人の範囲やつきあいの程度等を指標とする「地域の人間関係」であり、②影響力は前者の方が大きいものの、後者もそれに近い影響力があること、③貯蓄状況や経済的余裕の程度を指標とする「経済レベル」も影響力があるが、地域生活価値に対しては「地域の人間関係」を経由した間接的な影響であること等である。なお、富良野市と南富良野町の間で、各要因の影響力の大きさに若干の差異はあるものの、大まかな傾向は共通していた。

これにより、従来市町村が行ってきた生活利便性向上や住環境向上の取り組みは、地域生活価値を高める効果が期待できることが確認された一方、コミュニティづくりなどの「地域の人間関係」に関わる取り組みも重要であることが合わせて確認された。また、「経済レベル」を上げるための産業振興施策も地域生活価値を高める上で重要だが、その効果は「地域の人間関係」を通じた間接的なものであることから、産業振興の効果が地域生活価値を高められるか否かは地域コミュニティ次第という側面があることもわかった。

ただし、これらのモデルは、あくまでアンケート回答者の共通特性として得られたモデルであり、たとえば、事前の聞き取り調査で重要と考えられた「地域で多様な役割を受け持つことによって得られる幸福感」や「無形の対価のやりとりにより得られる幸福感」などの要素は、統計分析上は有意な関係として示されなかった。この点は、統計解析の限界とも言える。

5. 地域生活価値研究によって得られたもの

ここまでの研究を通じて、統計解析によっても、従来から言われている「客観的要素だけでは評価できない領域」は存在し、それらは地域生活価値に対して一定の影響をもつことが確認された。そして、長年重要視されてきた「経済的な要素」は、地域生活価値に対して間接的に影響するということがわかった。ただし一方で、統計モデルによる分析では、地域の現場の具体例に見られた重要な要素が、抜け落ちてしまう場合があることもわかった。「顔が見える範囲」のやりとりが重要となる集落の生活においては、統計的な一般解よりも、現場の特殊解の方が重要な場合も多く、この点は無視できない。よって、一般的な傾向を理解するための分析手法と、個別具体の現場に対して解決策を議論するための手法は、ある程度分けて考えた方がよいと思われた。

その意味で、「ひと・もの・価値フロー図」による可視化は、当初は、筆者らが地域生活価値を理解するために、地域での価値のやりとりを整理する目的で使用した方法であったが、むしろその作図のプロセスが、実際の現場で共通理解を図り、実際の対策を考えていく上でも有効な役割を果たす可能性があると考えられた。図1に示した例を見ても、最終的に描かれた図は、必ずしも一見して状況がすべて理解できるものではない。しかしながら、その作成プロセスでは、常に、Give & Takeの関係を意識して作図していくため、作図者は、複雑かつ、ときに間接的なGive & Takeを含むような地域内の関係でも、その損得勘定を意識しながらしくみを理解することができる。このことは、新たなしくみを考え出

す際にも同様と考えられる。すなわち、ひと・もの・価値フロー図を使って新たな地域定住促進のためのしくみをデザインすることは、地域生活価値向上を含めた適切な損得勘定のバランスを考えながらしくみをデザインすることになり、妥当性の高いしくみづくりにつながる。さらに、たとえばこのプロセスを地域の方々と共有できれば、地域の方々が納得した持続性の高い仕組み、すなわち、一般化によって大事な要素が抜け落ちた最適解ではなく、地域での持続性が高い納得解が得られる可能性も高まると考えられる。

今後は、実際の場面での新たな仕組みづくりに「ひと・もの・価値フロー図」作成プロセス導入を試行、そして検証し、同手法を用いた地域定住促進・集落再編の議論に役立てて行きたい。

本稿は、北海道立総合研究機構の平成27年度研究開発推進費「「ひと・もの」のフロー」と「生活の質」からみた地域生活価値の要因解明」および建築研究本部経常研究「地域定住促進に向けた「地域生活価値」の分析（平成28～29年度）」の結果を基に論じたものである。

参考文献

- 1) 国連開発計画 (UNDP) : 人間開発報告書2016 概要版 (日本語), 国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所, 2017.3
- 2) OECD: How's Life?: Measuring well-being, OECD Publishing, 2011.
- 3) Karma Ura, Sabina Alkire, Tshoki Zangmo, Karma Wangdi: A short Guide to Gross National Happiness Index, The Center for Bhutan Studies, 2012.
- 4) 幸福度に関する研究会: 幸福度に関する研究会報告-幸福度指標試案-, 内閣府, 2011.12
- 5) 田崎美弥子, 中根充文: WHO/QOL-26手引き改訂版, 金子書房, 2007
- 6) Sonja Lyubomirsky, Heidi S Lepper: A measure of subjective happiness: Preliminary reliability and construct validation, Social Indicators Research, Vol.46, pp.137-155, 1999.
- 7) 岡村篤, 佐々木優二, 福井淳一: 地域生活交通における利用意向の要因と意識構造に関する研究, 北海道立総合研究機構建築研究本部調査研究報告書, No.386, 2018.

自習型認定研修の設問は、P8に記載しています

道士会の動き

道本部の主な会議報告（7月）

- ◆CPDプログラム評議会
 〈開催日〉7月5日(木)
 〈議題〉1)平成29年(7月)～平成30年(6月)CPD制度プログラム認定状況
- ◆四役会議
 〈開催日〉7月9日(月)
 〈議題〉1)平成30年度東西アスファルト事業協同組合助成事業
- ◆第2回選挙管理委員会
 〈開催日〉7月12日(木)
 〈議題〉1)一般社団法人北海道建築士会 代議員選挙の告示
 2)代議員選挙に係る各種様式
 3)代議員選挙の信任投票の通知
- ◆第3回「住教育出張講座」運営委員会
 〈開催日〉7月14日(土)
 〈議題〉1)「建築士による住教育出張講座」開催校選定
 2)出張講座担当者・建築士教諭向けセミナー担当者
 3)教材・指導方法
- ◆第2回女性委員会
 〈開催日〉7月14日(土)
 〈議題〉1)平成30年度 女性委員会の活動報告・計画
 2)全道大会A分科会準備状況報告と今後の予定
 3)女性建築士の集い準備状況報告と今後の予定
- ◆ありかた検討会議
 〈開催日〉7月23日(月)
 〈議題〉1)北海道建築士会の問題の洗い出し
- ◆四役・実行委員長会議
 〈開催日〉7月24日(火)
 〈議題〉1)東西アスファルト事業協同組合助成対象事業

道本部の主な行事予定（8月）

- 18日(土) 第6回全国大会（北海道大会）実行委員会の開催
- 25日(土) 第2回青年委員会

編集後記

気付けば今年もあと残り5か月。7月は各支部で様々な建築士の日イベントが開催され、10月6日の全道大会に向け士気を高めていることと思われれます。

しかし、これまでを振り返ると、6月に入ってから雨模様の毎日。全国的にも豪雨により各地で今まで感じたことのない異常気象に見舞われ、被害に遭われた方を思うと耐え難い感情を抱き、一建築士として何か出来ることは無いかと振り返る毎日と思われれます。

そんな天気を拭い去るべく、今月号では青年建築士が未来の建築士を担うイベントを特集しており、こども建築士によって明日の建築は「快晴」となることを願っています。

情報委員会 村山 賢司

講習会のご案内

監理技術者講習

8月24日(金) 札幌市

建築士定期講習

8月30日(木) 札幌市

CPD認定プログラム(7月認定)

- ◆建築・インテリアのプロが描くスケッチパース
 〈日程及び会場〉8月4日(土) 9:30～16:30
 8月5日(日) 9:30～16:30
 旭川市 大雪クリスタルホール
- 〈単位数〉 各6単位
- 〈問合せ先〉 (一社)北海道建築士 旭川支部
 TEL 0166-22-8894

CPD 自習型認定研修の設問

P5-P7 技術ノート
 (地域生活価値に関する研究)

北海道建築士 No.252
 2018/8/1 単位:1

設問 豊かさを示す指標の説明として、間違っている記述はどれか。

1. OECDが開発したBetter Life Indexは、世界各国の比較ができるが、評価者によって順位が入れ替わりうる。
2. GDPは経済的な指標であって、豊かさを示す指標としては認められていない。
3. WHOQOL-BREFは、「身体的領域」「心理的領域」「社会的関係」「環境」「総合」の5つのドメインに属する質問によって構成される。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ①CPD情報システムにログインをします。
- ②士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- ③CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤設問への解答を選択します。
- ⑥入力後、「次へ」を押します。
- ⑦確認画面より「申請する」を押して、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

情報委員会委員長/斎藤 勝哉
 副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁
 委員/熊谷 智・柏倉 晶憲
 村山 賢司・片岡 哲二

北海道建築士 No.252号

印刷 平成30年7月/発行 平成30年8月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番